

項目	内容
開講年度	2023
講義コード	2017年度カリキュラム：027014、2023年度カリキュラム：要確認
科目ナンバー	[LIB]-[APU]-[100]
開講セメスター	春セメスター
講義名・クラス名	異文化フィールドワークⅠ（共通教養科目）
プログラム名	FIRST
担当教員	立山 博邦（JAクラス）、平井 達也（JBクラス）、Hu Feiyu（JCクラス）
実習地	韓国
単位数	2
備考	
講義分野	異文化理解、異文化間コミュニケーション、チームワーク
履修の目安	第1または第2セメスターの国内学生（言語基準は問わない）を主な対象としている。国際学生も履修可能ではあるが、授業は日本語でおこなわれるため、日本語基準の者または「日本語中級」修了者に限る。異なる文化やその文化を持つ人々との交流に興味を持ち、APUが提供する多文化な環境や海外学修の機会を最大限に活用したいと考えている学生に、その「FIRST」ステップとして履修
授業概要	この科目は事前・事後学習を伴う短期海外実習プログラム（4泊5日）である。少人数グループでの学習活動が中心となる。事前学習では、派遣国の言語・文化および社会調査の手法を簡潔に学んだうえで、現地調査（アンケート）の準備をおこなう。実習では、指定された地方都市に公共交通機関を駆使して自力で辿り着くという「異文化オリエンテーリング」の後、その目的地で現地の人々の協力を得ながら調査を実施する。事後学習では実習の振り返りをおこなった後に、現地調査の結
到達目標	1) APU在学中に多く経験する異文化接触状況に対し、自分なりの対応方法を考えることができるようになる 2) APU在学中に多く参加するであろう海外学修プログラムにおいて、学びの目標や自己成長の目標を立て、それを貫徹するための方法を考えることができるようになる 3) APUで多用されるグループワークにおいて、仲間と協働して共通の目標を達成するための方法を考えることができるようになる 4) APUでの4年間の学びについて計画を立て、それを実行するための方法を考えることができるようになる
授業方法	教員による指導およびTAによる補助のもと、少人数グループで主体的に学習活動をおこなう。
毎回の授業の概要	事前授業1・2：プログラム概要の理解、グループ分け、アイスブレイク、ループリックの理解・作成、社会調査の基礎の理解など 事前授業3・4：派遣国の言語・文化学習、調査トピックの検討 事前授業5・6：派遣国の言語・文化学習、問い・仮説の検討 事前授業7・8：派遣国の言語・文化学習、アンケートの作成 実習：異文化オリエンテーリング、現地調査 事後授業1・2：実習の振り返り 事後授業3・4：調査結果のプレゼンテーション
実習スケジュール	募集要項を参照のこと

予習・復習の内容と分量	授業時間外にグループで集まって現地調査の準備やプレゼンテーションの準備をすることが求められる。
成績評価方法	事前・事後授業への出席および積極的参加：35%
	プレゼンテーション（グループ課題）：35%
	振り返りエッセイ（個人課題）：30%
	成績はP/Fによる。事前・事後授業にはすべて参加すること。やむを得ない事情がある場合を除き、遅刻・欠席は認めない。無断欠席をした者には単位を認定しない場合がある。
多文化協働学修の実践方法	事前・事後授業においては、派遣国出身または派遣国の言語・文化に精通したTAに質問したり教えてもらうことができる。海外実習においては、現地の人々とコミュニケーションをとったり、異文化について自分が観察したことを他の受講生とディスカッションをすることができる。
授業担当教員の実務経験	
学生への要望事項	海外実習では特に積極性が求められる。自分の成長を信じて、積極的に考え行動しよう。
テキスト (授業を履修する上で、購入が必須となる書物)	
参考文献備考	
参考文献 (図書、視聴覚資料) ライブラリリザーブコーナーに設置	小倉紀蔵（2012）『心で知る、韓国』岩波現代文庫。 鈴木深良（2010）『旅の指さし会話帳5 韓国』（第3版）情報センター出版局。
参考文献 (雑誌、年鑑白書等)	
備考	
担当教員研究室電話番号	
担当教員E-mailアドレス	hirokuni@apu.ac.jp（立山）、hirait@apu.ac.jp（平井）、授業にて周知（Hu）
E-Book および 関連ページ	